

「京都西山せせらぎ音楽祭」企画運営業務 仕様書

1 委託業務名

「京都西山せせらぎ音楽祭」企画運営業務

2 目的

洛西“SAIKO”プロジェクトや“西京区制50周年記念・洛西ニュータウンまちびらき50周年記念事業”の一環として、小畑川「水辺の舞台」において、京都西山地域（西京区洛西地域、向日市、長岡京市、大山崎町）及び京都市内の中学校・高等学校等の吹奏楽部による音楽祭を開催し、洛西地域の賑わいを創出するとともに、洛西地域に住む多くの市民に向けて「音楽が身近にある洛西」という機運を醸成する。これにより、京都西山地域に集う若者が音楽を楽しんで披露できる公共空間を確保することを目指す。

3 開催日時

(1) 京都西山せせらぎ音楽祭2026秋

令和8年11月14日（土） 11時30分～14時

(2) 京都西山せせらぎ音楽祭2027春

令和9年3月27日（土） 14時～16時30分

※ イベント全体のスケジュールは別途協議の上決定するが、上記時間を想定。

4 開催会場

小畑川「水辺の舞台」（雨天時：元竹の里小学校体育館）

※ 位置図参照

5 業務の内容

(1) 音楽祭

京都西山地域及び京都市内の中学校・高等学校等の吹奏楽部を中心とした音楽祭を開催するにあたり、以下の業務を行うこと。

ア 小畑川「水辺の舞台」（雨天時は元竹の里小学校体育館）において、音楽祭を実施するための会場設営を行うこと。会場サイズは【別紙1】のとおり。

出演者用の椅子は60脚程用意することとし、演奏者人数に合わせて出し入れを行うこと。

イ ソロ演奏及び出演校の生徒がMCを行うための音響設備（マイク・スピーカー等）を2箇所用意すること。なお、電源については、ポータブル電源（1500W / 回路数100V/AC×4）2台を本市が用意する。

ウ 楽器運搬に必要な車両を複数台手配し、随時、出演校と会場間の楽器運搬を行うこと。ただし、楽器の積み込み・積み下ろし作業は出演校が行うものとする。

また、各校の積荷量については受託後、本市から情報提供し、大型打楽器（ティンパニ、マリimba、ビブラフォン等）については、協力校の楽器を他の出演校が共用利用するものとする。

エ 出演校について、楽器運搬時間等を本市と協議の上、調整すること。

オ 音楽祭開催の数時間前からリハーサルを行い、リハーサル・本番に係るタイムスケジュールを作成し、進行管理を行うこと。なお、リハーサル時間は各校10～20分程、合同演奏30分程とし、本番出演時間は各校20～30分程、合同演奏15分程とする。

カ 【別紙2】に記載するパンフレット制作（印刷、配送、その他費用負担を含む。）し、当日の会場で配布すること。

キ 本事業が事故なく安全に終わることができるよう、以下の安全管理を行うこと。

- ・来場者の誘導及び導線確保
- ・雑踏事故防止のためのスタッフ配置
- ・電気設備の安全管理

ク SNS、ウェブサイト、その他広報媒体等を効果的に活用し、イベント情報及び魅力を広く発信すること。

ケ 出演校がスムーズに移動・演奏できるよう、以下書類を作成し本市へ提出すること。

- ・全体のタイムスケジュール
- ・楽器運搬スケジュール
- ・会場・会場周辺の導線図
- ・注意事項

コ 合同演奏で使用する、本市が指定した楽譜を2曲分（パート譜含む）購入すること。

(2) 晴天時の対応

ア 小畑川「水辺の舞台」上中央のへこみ（0.9m×1.2m）を平台等で養生し、指揮者台として使用できるようにすること。また、指揮者の落下防止用にポールパーテーション等を設置すること。

イ ステージ周辺（客席階段上南側河川敷）に楽器やケース等を置くことのできる待機場所を設営すること。待機場所のテントは1張り3m×3m程度とし、出演校の荷物量に合わせて用意すること。また、テント下にはブルーシート等の緩衝材を敷くこと。

ウ ステージ対岸の階段を客席とし、出演者が移動する導線を確保すること。導線の幅については、1m程度を想定。

エ 飲食ブース又はキッチンカーの手配、連絡、調整を行うこと。

(3) 雨天時の対応

- ア 前日の17時までに本市と協議し、開催場所を確定すること。また、会場変更後の関係者（スタッフ、出演者、出店者等）及び来場者への周知方法を定めること。
- イ 南校舎1階廊下にブルーシート等を敷き、通路と楽器ケース・楽器保管場所を分けること。また、各校の荷物が混ざらないよう区間を分けること。
- ウ 観客用の観賞エリアを設置すること。観賞エリアに関しては、着座、着席、立ち見に分けること。なお、観客用の椅子は学校備品の椅子を貸与するものとする。
- エ 来場者は体育館以外、出演者・関係者は体育館、南校舎1階以外への立入禁止を徹底すること。
- オ 本市が指定する導線等を使用すること。
- カ 体育館は2足制となっているが、靴置き場がないため、来場者の靴の履き違い等に注意すること。
- キ トイレは体育館に1箇所（和式のみ）、南校舎1階に1箇所（洋式あり）あるので、体育館は来場者用、南校舎1階は出演者用として利用を区分すること。
- ク 雨天時の会場に関しては、閉校してからの設備利用が少ないため、排水・電気設備にトラブルが生じる可能性がある。トラブルに備え、対応方法を本市と協議し実行すること。
- ケ 会場内の使用した場所については開催後、清掃し、原状回復すること。
- コ 飲食ブース及びキッチンカーは手配しない。

(4) その他

- ア 原則として、本業務に必要な物品等は受託業者が用意すること。
- イ 契約後、速やかにスケジュール等の詳細について協議すること。また、事業の進捗等について、適宜、報告・協議を行うこと。
- ウ 開催終了後は、速やかに使用物品を撤去し、原状回復すること。
- エ イベントの準備から片付けまでの作業中は、やむを得ない場合を除き、現場責任者が必ず立ち会うこと。また、イベント当日についても、安全かつ確実に業務遂行できる体制を備えること。
- オ 上記のほか、独自企画があれば実施すること。

6 企画提案事項

- ・ 事業実施までの事前スケジュール
- ・ 楽器運搬計画（スケジュール、経路）
- ・ 当日の楽器搬入搬出及び出演者の導線
- ・ 楽器及び出演者の待機場所の設営
- ・ 雨天時の対応（雨具の管理及び会場保護の対応策）
- ・ 安全対策計画（楽器の運搬・保管、出演者及び来場者の安全確保等）

- ・ 飲食ブース又はキッチンカーの配置計画、提供する飲食物の方向性、台数等
- ・ 業務を実施するために必要な人員配置計画
- ・ 広報戦略

※ 出演校との調整により提案事項の修正をお願いする場合があります。

7 出演予定校

京都西山地域及び西京区の中学校・高等学校においては、本市が現在出演依頼を行っており、出演校数は各開催につき6～8校、出演者数は総勢120～200名を想定している。

また、状況に応じて追加で出演依頼を行う予定であり、受託者に対して交渉や調整の協力を求める場合がある。

なお、出演校は今後の調整により変更となる場合がある。

8 提出書類

受託者は、本業務完了後に以下の書類を電子データにて本市に提出すること。ただし、第1号の実施報告書は書面でも提出すること。

- (1) 実施報告書（収支決算書を含む。）
- (2) 吹奏楽祭の様子を収めた画像データ
- (3) その他本市が求める資料

9 留意事項

(1) 著作権等について

ア 本業務の実施により、得られた成果物の著作権、著作権等の一切の権利は、全て本市に帰属する。また、受託者が撮影した写真や作成したデザイン等を他の目的に使用する場合は、事前に本市の承認を得ること。

イ 成果物及び校正素材に含まれる第三者の個人情報及び著作権その他の権利については、受託者が納品前に適切な処理を行うこととし、その経費は委託料に含むものとする。

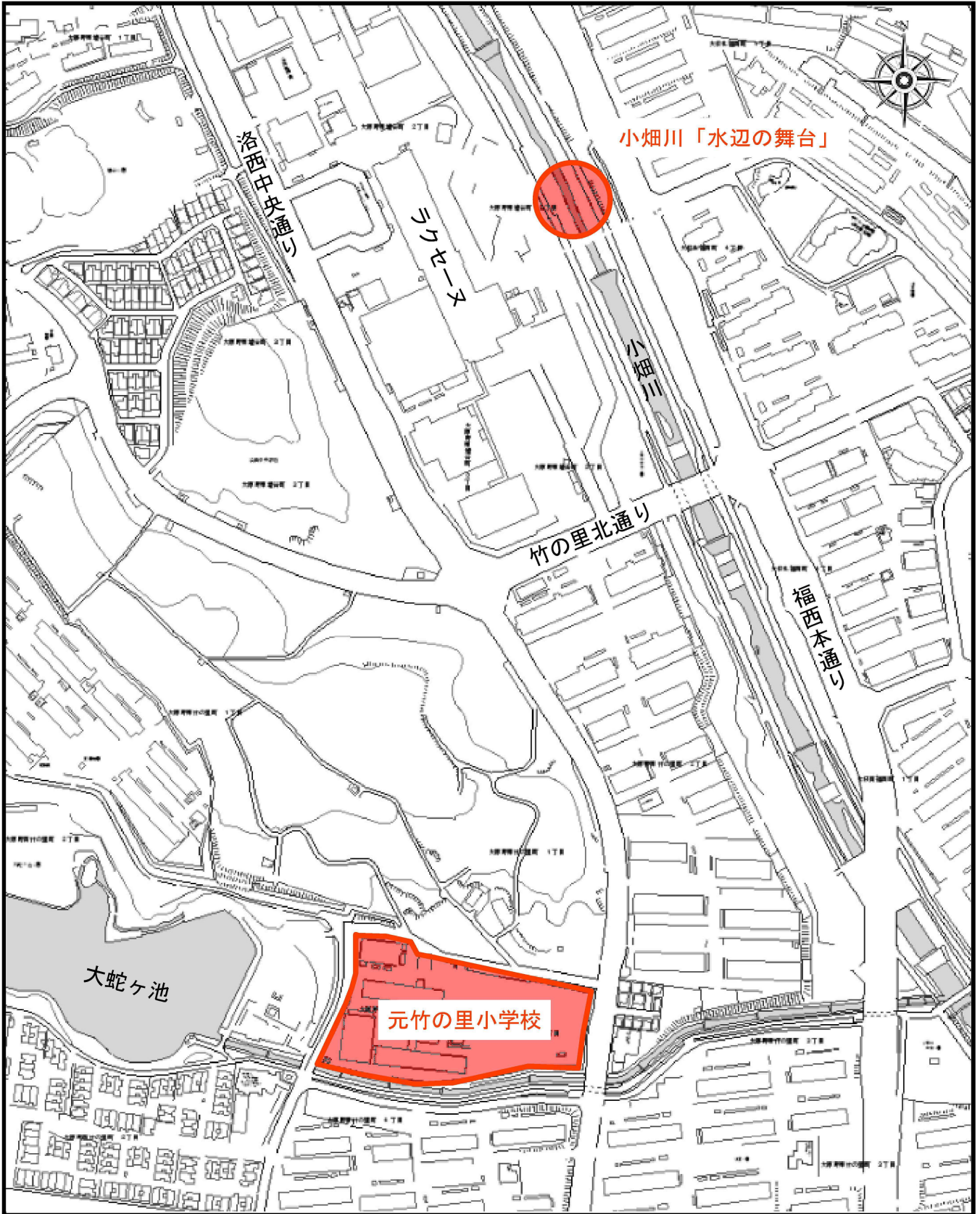
(2) 協議事項

受託者は、本業務の実施にあたり、委託者等と連携を密にし、業務内容に疑義が生じた場合は、速やかに委託者へ報告し、協議を行い決定すること。

位置図

135. 672798, 34. 964424

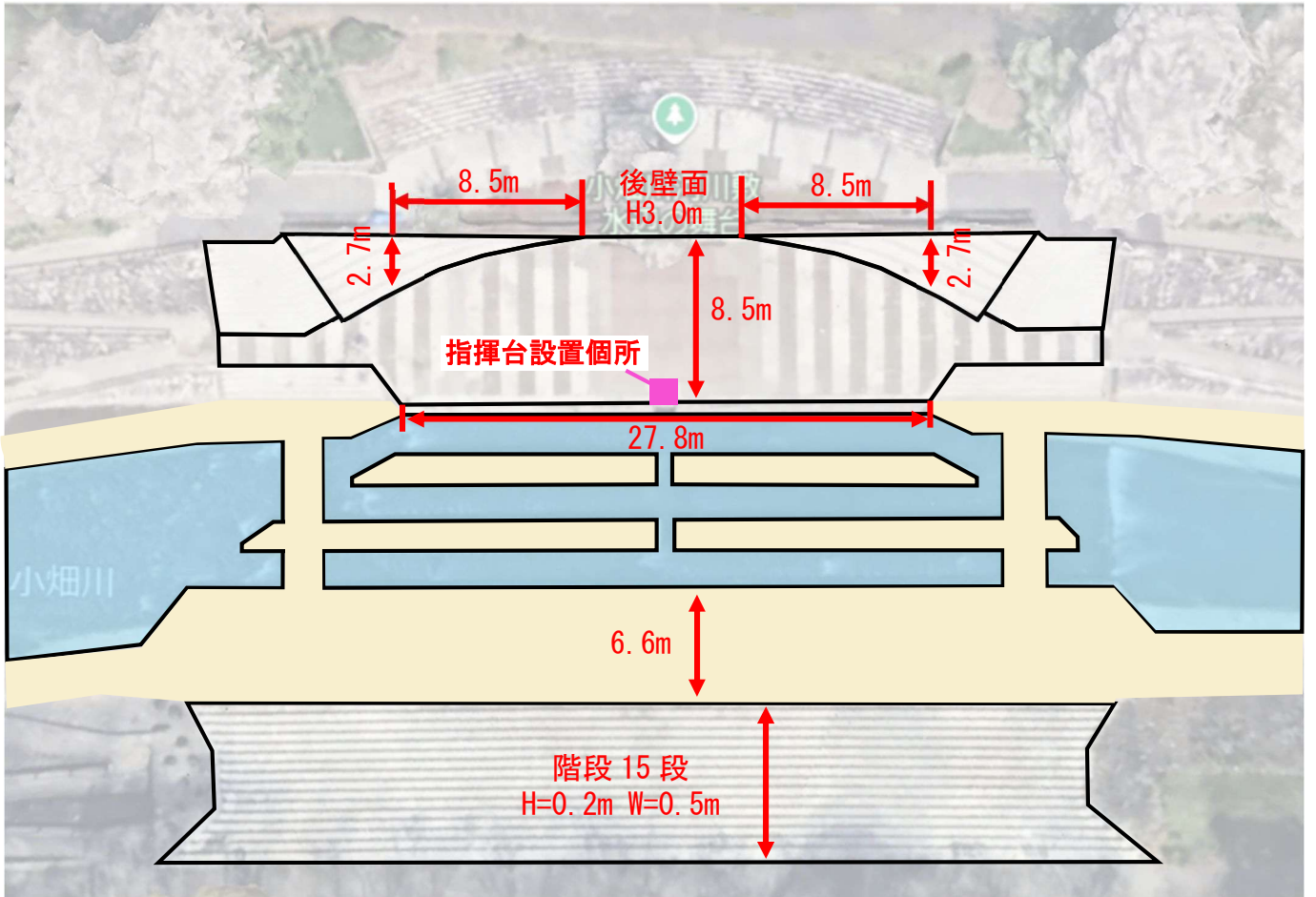
135. 681057, 34. 964424



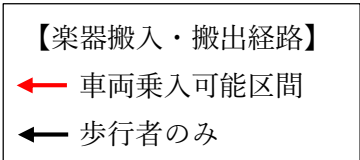
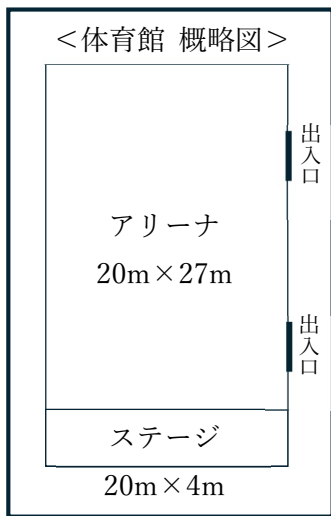
135. 672798, 34. 955960

135. 681057, 34. 955960

【会場：小畑川「水辺の舞台」】



【雨天時の会場】元竹の里小学校



パンフレットの作成について

- 1 「京都西山せせらぎ音楽祭 2026 秋」及び「京都西山せせらぎ音楽祭 2027 春」の開催当日に会場で配布するパンフレットを作成すること。
- 2 パンフレットの仕様は、A4 サイズ（A3 二つ折り）フルカラー印刷で、コート紙（90kg）を使用すること。
- 3 各パンフレットに共通して記載する事項は、次のとおりとする。なお、画像データは必要に応じて別途提供する。
 - (1) 事業名
 - (2) 開催日時
 - (3) 開催場所
 - (4) 主催
 - (5) 西京区制 50 周年ロゴマーク
 - (6) 洛西“SAIKO”プロジェクトロゴマーク
 - (7) プログラム
 - (8) 演奏曲目
 - (9) 各学校の紹介
- 4 各パンフレット 2,000 部ずつ、合計 4,000 部作成すること。
- 5 納期・納品場所については定めないが、当日会場にて配布できる体制をとること。
- 6 校正は 3 回程度とする。また、各出演校への確認等に要する時間を十分に考慮し、校正工程には一定の時間を確保すること。